

監修の序

このたび、斎藤 豊先生と炭山和毅先生の企画・編集のもとに「見えないものが観えてくる！ 画像強調内視鏡の診断ロジック」が上梓の運びとなった。監修者としてこの書籍の刊行に参加することができることを心から嬉しく思っている。

本書の特徴は、内視鏡観察時の着眼点や診断のロジックとプロセスに重点をおいていることであり、初学者のための画像強調内視鏡入門書である。また、国立がん研究センター中央病院と東京慈恵会医科大学の2施設の執筆陣でほぼ構成され、用語や使用する機種なども同じで一貫性がもたれている。

本書の構成は、はじめに画像強調内視鏡の臓器別活用法として、用語と分類が整理して解説されている。続いて、食道、胃、大腸に分けて、“画像強調内視鏡の観察の仕方”、“腫瘍・非腫瘍の鑑別と深達度診断”（あるいは範囲診断），“治療適応の診断ロジックとプロセス”，検査レポートの書き方“の順でわかりやすい表現で記載されている。選りすぐりの症例に対して、通常光、色素内視鏡、NBIなどの画像強調観察、拡大観察まで含め、豊富かつ鮮明な内視鏡写真が、対応する病理組織像と対比して提示されている。特に観察時の注意点やポイント、所見のとり方など症例ごとのポイントが、上級医（内視鏡指導医）が実際に研修医や後期レジデントに直接語りかけるように丁寧に解説されている。それぞれの内視鏡写真をよく観察して、解説を熟読していただければ、画像強調内視鏡の診断ロジックが十分理解されうるものと思っている。そのうえで読者自身が日々経験する症例と比較検討していただければ、画像強調内視鏡診断の理論を身に付けて日常診療に即役立たせていただけるものと確信している。

最後に大変お忙しいなか、執筆を引き受けていただいた諸先生方に厚く御礼申し上げますとともに、編集の労をとっていただいた羊土社編集部の中田志保子氏、鈴木美奈子氏に感謝いたします。

2016年10月

日本消化器内視鏡学会 理事長
東京慈恵会医科大学先進内視鏡治療研究講座 教授
田尻久雄